

## 第2回アジアデンタルフォーラム (ADF) シンポジウム記録

主題「日本の歯科医療サービスのアジア展開」

日時：2015（平成27）年2月14日 10時30分から17時

場所：東京医科歯科大学歯学部特別講堂

主催：一般社団法人アジアデンタルフォーラム

後援：厚生労働省・経済産業省・一般社団法人 Medical Excellence JAPAN・東京医科歯科大学歯科同窓会

対象：歯科医療機器産業関係者・歯科医学研究者・歯科医療関係者

定員：100名           シンポジウム参加費：1万円（懇親会費含む）

趣旨：わが国の医療サービスを世界に発信し、世界の人々の健康を願いつつ、わが国の医療を成長産業として発展させることがいま、求められています。このシンポジウムでは医療サービスの世界展開を積極的に支援するME J 理事長の山本修三氏から、なぜ、いま、世界なのかというお話を伺います。その後、アジアの現状を医療制度と口腔保健の立場から東医歯大川口陽子教授から解説して頂きます。その上で、アジアの歯科医療になぜ、私たちが積極的に参加するのかということ、加えて実際にアジアで歯科診療に関わった先生方の体験談をお聴きすることで、日本の歯科医療サービスの今後のアジア展開をともに考えていきます。

理事長挨拶 10:35-10:55 「アジアデンタルフォーラム ADF の活動」

江藤一洋 ADF 理事長

基調講演 11:00-12:00 「日本の医療サービスの海外展開：現状と展望」

山本修三先生 Medical Excellence JAPAN 理事長

安倍政権の骨太方針の中に、医療成長戦略が上げられ、内閣官房の下に、日本医療研究開発機構の設立と医療の国際展開を二本柱として、健康・医療戦略室が立ち上がった。これに関わる法律も整備され、前者は本年4月に正式に発足する。医療の海外展開は、官民一体となって、これを推進するために、2013年4月、新 Medical Excellence JAPAN がスタートした。その二年間の活動の現状を述べ、今後の課題と方向について言及したい。

昼食・懇親会 12:00-13:30

特別講演 13:30-14:30 「アジア諸国の歯科医療制度と歯科保健状況」

川口陽子先生 東京医科歯科大学大学院教授

現地調査や文献調査、また、各国の留学生からの情報提供に基づいて、中国、韓国、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、ミャンマーなどの歯科医学教育、歯科医療従事者、歯科保健サービス、医療保険制度および歯科保健状況等について、日本と比較

して紹介する。また、これらのアジア諸国において、住民の歯科保健状況を向上していくために、日本の歯科界が今後どのように貢献できるかを検討してみたい。

講演 14:30-15:30

### 1. 「日本発の新しい歯科治療のアジア展開を目指して」

生田 図南先生 生田歯科医院（熊本県）院長

日本の歯科医療は1990年ごろまではカリエスの嵐のような状況でしたが、現在は8020運動の展開などもあり、カリエスの治療から歯周病の治療へと治療内容が変化してきています。また、今後は日本が突入する超少子高齢化時代に向けて予防の充実が、喫緊の課題となりつつあります。さらに、日本の歯科界においては、口腔内で起きる現象に関して解明されていなかった現象の研究や治療方法の開発が徐々に進行しており、今まで、治療に難渋していた症例に対応できるような状況になりつつあります。特に歯周病治療や矯正治療や咬み合わせ治療などの分野でパラダイムシフト的な理論や治療方法の進化が目覚ましい状況です。さて、アジア諸国の歯科医療状況を視察して感じたことは、一部の国や一部の富裕層を除いて、多くのアジア諸国の人々の口腔内は日本の1990年以前の状況ではないかと推察されます。日本の歯科医師が経験してきたことが、アジア諸国の人々の口腔の健康のみならず、全身の健康状態の向上のためにお役に立てるのではないかと感じます。これからの時代は医療においても無償提供ではなく、アジア諸国に先進的な医療技術を提供し、人々の健康増進を促進するとともに、得られた利益を日本に持ち帰り、日本の経済のお役に立つことも大きな使命だと感じています。多くの若い世代がネット環境だけの繋がりではなく、実際に現地へ赴き、グローバルな活動を展開していくことが閉塞感に包まれている日本を発展させるために必要なのではないかと思います。

### 2. 「新加坡シンガポールにおける日本人歯科医師活躍の可能性—15年の経験を通して—」

小川 原元成先生 小川原デンタルクリニック（東京都）院長

日本人が海外で生活をする際に『医療』に対する不安は大きい。それは言葉の問題だけではなく、滞在国の医療水準への不安でもある。海外での日本人歯科医師の存在は、在留邦人の医療に対する不安を払拭し生活水準向上に繋がっている。シンガポール政府は、特定の国の医師・歯科医師に自国の免許で診療することを許可している。この政策により、多くの企業がアジアに進出する際にシンガポールを拠点とすることを期待している。アジアのMedical Hubを目指すシンガポール。ここに日本人歯科医師が存在することの意味と、これからの可能性を15年の経験を通して考えてみたい。

### 3. 「モンゴル国の歯科事情」

益田 高行先生 モンゴル国立医療科学大学客員教授

人口約300万人の小国ながら、大帝国であった歴史と独自の文化、石炭、金、銅など世界有数の地下資源、識字率が高く高等教育にも熱心な国民性を備えたモンゴル。前途有望ともいえる中、医療には未解決の問題が山積して、新興富裕層の他国への医療ツーリズムが一般化するなど、安心、安全、そして高度な医療への需要が高まっている。そのような背景を踏まえ、歯科医療の現状と、日本からの参入の可能性について検討したい。

## 座談会 15:40-16:30 「アジアで求められる歯科医業」

司会 岡野友宏 ADF 専務理事

### 著者経歴

#### ■山本 修三（やまもと しゅうぞう）氏

医師・医学博士。1959年慶應義塾大学医学部卒業。1964年慶應義塾大学大学院医学研究科修了（外科学）、1967年米国シンテックスリサーチセンター研究員、1973年済生会神奈川県病院外科、1990年同院長、2002年済生会神奈川県病院名誉院長、2007年社団法人日本病院会会長、同名誉会長、国際病院連盟理事、慶應義塾大学医学部客員教授、慶應義塾評議員、慶應義塾病院経営ボードメンバー、日本病院団体協議会議長、日本救急医学会名誉会員、日本外傷学会名誉会員、日本学術会議連携会員等を歴任。2013年一般社団法人 Medical Excellence JAPAN, MEJ 理事長。内閣官房参与。主な著書は『腹部外傷の臨床』、『出血性ショック：出血性ショックの緊急処置の方法は？』、『外傷の病理生理と分類：外傷性ショックの病態と治療』、『腹部外傷における画像診断』、『骨盤骨折とショック』、『医療を崩壊させないために—医療システムのゆくえ（学術会議叢書(15)）』など多数。

#### ■川口 陽子（かわぐち ようこ）氏

1979年東京医科歯科大学歯学部卒業後、東京医科歯科大学歯学部予防歯科学講座助手。1994年オーストラリアメルボルン大学歯学部客員研究員。1996年東京医科歯科大学歯学部予防歯科学講座講師。1997年東京医科歯科大学歯学部国際交流室講師。1998年文部省在外研究員（米国、デンマーク）2000年東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野 教授。2003年東京医科歯科大学歯学部附属病院 息さわやか外来診療科長、現在に至る。

講演題目：「アジア諸国の歯科医療制度と歯科保健状況」

#### ■生田 図南（いくた となみ）氏

歯科医師・歯学博士。1955年熊本県生まれ、1981年九州歯科大学卒業、1984年生田歯科医院開院、2001年国際歯周内科学研究会代表理事、2009年米国インディアナ大学フェロー取得、2012年日本口腔感染症学会大会長。主たる著書は『口腔内微生物叢と除菌療法を検討する』（鴨井久一・山本共夫・市川哲雄・前田伸子・生田図南共著デンタルダイヤモンド社、『チェアーサイドの消毒・滅菌ライフラインガイドブック 院内感染対策からインプラントまで』（井上秀人・生田図南共著デンタルダイヤモンド社）まど。

■小川原 元成（おがわら もとなり）氏

歯科医師・歯学博士。1967年千葉県生まれ。1992年東京医科歯科大学歯学部卒業後、歯科保存学第三講座入局。1997年大学院修了。1998年3月医局よりシンガポールに初の日本人歯科医師として赴任。2012年シンガポールより帰国。2013年1月、池袋西口小川原デンタルクリニック開院。日本シンガポール協会会員。

■益田 高行（ますだ たかゆき）氏

歯科医師、歯学博士 1959年東京生まれ。1985年東京医科歯科大学歯学部卒業。1989年東京医科歯科大学大学院修了、同年同歯学部附属病院第二補綴科医員。1993年文部教官助手（東京医科歯科大学歯学部歯科補綴学第二講座）。1995年から1996年まで米国 University of North Carolina 歯学部 Visiting research assistant professor（Department of Prosthodontics and Dental Research Center）。2000年から2008年まで東京医科歯科大学大学院摂食機能保存学分野助手（のち助教）2003年から2008年まで東京医科歯科大学留学生専門教員 2005年から2008年まで東京医科歯科大学歯学部附属病院外来医長（義歯外来）。2005年よりモンゴル国立健康科学大学（現モンゴル国立医療科学大学）歯学部客員教授、2011年よりモンゴル国に本拠を移す。2011年同歯学部病院長顧問。2013年よりモンゴル国立医療科学大学国際関係ボードメンバー。論文：Masuda, T., Yliheikkilä, P.K., Felton, D.A. and Cooper, L.F.: Generalizations regarding process and phenomenon of osseointegration. Part I. In vivo studies. Int J Oral Maxillofac Implants 13: 17-29, 1998.（総説）など。

■江藤 一洋（ADF 理事長・東京医科歯科大学名誉教授）

1967年東京医科歯科大学歯学部卒業、1971年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）、1971年文部教官助手（東京医科歯科大学歯学部小児歯科）、1976年米国国立衛生研究所（NIH）客員研究員、1978年文部教官教授（東京医科歯科大学歯学部）、1997年歯学部長（東京医科歯科大学）2001年副学長（東京医科歯科大学）、2006年厚生労働省医道審議会歯科医師分科会会長、日本学生支援機構交流事業実施委員会委員、日本歯科医学会会長。2007年名誉教授（東京医科歯科大学）、2007年医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長、2008年文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」座長、2013年 Medical Excellence JAPAN 理事。

■岡野友宏（ADF 専務理事・昭和大学名誉教授）：総合司会

1973年東京医科歯科大学歯学部卒業、1977年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）、1977年文部教官助手（東京医科歯科大学歯学部歯科放射線学）、1979年米国国立衛生研究所（NIH）客員研究員、1985年文部教官助教授（長崎大学歯学部）、1987年昭和大学教授、2006年日本歯科放射線学会理事長、第100回歯科医師国家試験試験委員長、2007年昭和大学歯科病院長。2008年日本学術会議連携会員、2012年 R.V Dental College（Bangalore, India）Honorary Visiting Professor, 2013年昭和大学名誉教授、2013年 The University of Hong Kong Honorary Clinical Professor